



## 2021年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年1月28日

上場会社名 株式会社 ステップ

上場取引所 東

コード番号 9795 URL <https://www.stepnet.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 陽介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 新井 規彰

TEL 0466-20-8000

四半期報告書提出予定日 2021年2月2日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年9月期第1四半期の業績(2020年10月1日～2020年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第1四半期	3,197	1.5	956	△0.8	979	0.0	674	0.0
2020年9月期第1四半期	3,149	7.2	964	19.5	979	19.5	674	19.5

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第1四半期	40.86	—
2020年9月期第1四半期	40.85	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年9月期第1四半期	26,746	21,404	80.0	1,296.79
2020年9月期	26,036	21,060	80.9	1,275.93

(参考) 自己資本 2021年9月期第1四半期 21,404百万円 2020年9月期 21,060百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2021年9月期	—	—	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	20.00	—	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年9月期の業績予想(2020年10月1日～2021年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	6,027	5.3	1,340	6.5	1,364	5.7	931	5.4	56.40
通期	12,211	11.7	2,706	40.2	2,741	39.2	1,848	37.6	111.96

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2021年9月期1Q	16,670,000 株	2020年9月期	16,670,000 株
2021年9月期1Q	163,983 株	2020年9月期	163,983 株
2021年9月期1Q	16,506,017 株	2020年9月期1Q	16,506,765 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
3. 補足情報	7
(1) 生産実績及び受注実績	7
(2) 販売実績	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当事業年度の第1四半期(10月～12月)は、4月スタートの学年度の後半に入ったところで、生徒人数面では前事業年度からの流れを受けた水準で比較的変動の少ない時期です。当社では前期の新年度募集(2020年3月～4月)において新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、現在は緩やかに回復しつつあるものの完全な回復には至っておりません。当第1四半期におきましては、新型コロナウイルス感染症で春の入会が見送られた反動からか、例年と違って入会者が五月雨式に続いたものの、小中学生部門、高校生部門を合わせた当社の塾生総数は、期中平均で未だ前年同四半期比1.1%増と微増にとどまっています。第2四半期(1月～3月)は生徒数の伸びは引き続き限定的になる見込みですが、売上面では、前期は授業料の返金があったため、その反動による伸びが見込まれます。第3四半期以降はコロナ禍の影響を脱し生徒数は回復基調になるものと予想していましたが、新年度生の募集を開始する直前の1月7日に2回目の緊急事態宣言が発出され、不透明な状況を迎えています。前期においても新年度募集における新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったため、今回の緊急事態宣言が発出されているような状況が3月まで続けば、新年度募集が影響を受ける可能性があり、引き続き注視してまいります。

以上のように、短期的には緊急事態宣言の解除時期等によって影響を受ける可能性があります。しかし、昨年からの約1年にわたるコロナ禍においても、生徒やご家庭の学習に対するニーズは根強いものがあり、質の高い、そして生徒に寄り添うことができる学習指導が強く求められていることを実感しています。そのため、長期的にはコロナ禍の状況が克服されるとともに当社業績も上向いていくものと想定しております。なお、緊急事態宣言の発出を受けて、現在は昨年の経験を活かし、対面でのライブ授業をメインとしつつ、各教室でオンライン授業を並行して実施しています。

8年前に大幅に改変された現行の神奈川県公立高校入試は、当初、選抜システムの複雑化やいわゆるトップ校を中心とした特色検査という独特の選抜試験の導入など、制度面の変化が目撃されましたが、その後、学力検査問題の難化が継続して進み、入試当日の得点力勝負の色合いが濃い入試へと変貌を遂げています。人気校は軒並み倍率も高くなり、受験生にとっては緊張の高い入試制度になっています。そのため、小中学生部門では学習指導に加え、進学指導のニーズが高まって高学年ほど通塾率が高くなる傾向が進み、当社では受験学年である中3生やそれに続く中2生のクラスが満席状態となるスクールが散見される状況です。

高校生部門では、首都圏の大規模私立大学のいわゆる「定員厳格化」の動きの中でも、着実に合格実績を積み重ねています。その結果、神奈川県有数の現役高校生のライブ塾としての基盤を固めつつあります。

続く第2四半期中の2月には、神奈川県公立高校そして首都圏の私立・国立高校の入試が実施され、合格発表が一斉に行われます。これらの入試結果におけるステップ生の合格状況は、今後1年間の生徒募集に大きな影響を与えます。「横浜プロジェクト」(横浜市内の公立トップ校合格実績において当社の合格者数をナンバー1にするプロジェクト)、「翠嵐プロジェクト」(横浜・川崎方面で影響力の強い名門進学校である横浜翠嵐高校の当社の合格者数をナンバー1にするプロジェクト)は、2019年春・2020年春と達成し、現在3年連続を目指し全力をあげて取り組んでいる最中です。もちろんこの2プロジェクトに限らず、小中学生部門全体として、学習指導の充実に加え、これまでの合格結果を分析した詳細なデータを活かした精度の高い進路指導により、今まで以上の合格実績を目指します。

当社が小中学生部門と並んで力を注いでいる高校生部門は、「部活動や学校行事等を含む多面的な高校生活を充実させながら、同時に志望大学への現役合格も実現させたい」という高校生のニーズに応えられる体制作りに引き続き邁進しています。今春の大学進学実績においても、その成果を示すことができるよう全力を傾けているところです。変化の続く大学入試ですが、今後も積極的、現実的な対応を心がけ、カリキュラムや教師研修の内容の見直しを柔軟に行い、教務内容の一層の向上を不断に進めます。

学童部門は、2020年3月に「STEPキッズ辻堂教室」(JR東海道線辻堂駅)、「STEPキッズ茅ヶ崎教室」(JR東海道線茅ヶ崎駅)の2スクールを開校し、STEPキッズのネットワーク化がスタートしました。新規2教室においては初年度は小1・小2の2学年のみの募集ですが、2021年春からは小3、2022年春からは小4も加わり、生徒数も増加していく見込みです。引き続き3教室で運営ノウハウの蓄積・共有を進め、より質の高い運営を目指していきます。

当事業年度中の新規開校は、小中学生部門で3スクールを予定しています。当社が注力している川崎地区に元住吉スクール(東急東横線元住吉駅、川崎市中原区)、Hi-STEP川崎スクール(JR線川崎駅、川崎市幸区)、横浜市に上永谷スクール(横浜市営地下鉄上永谷駅、横浜市港南区)を開校します。旧川崎南部学区には初の開校となるほか、Hi-STEPは3年ぶりの新スクールです。元住吉と上永谷は3月から、Hi-STEP川崎は4月から授業を開始する予定です。

経営数値の概要ですが、当第1四半期累計期間の売上高は3,197百万円(前年同四半期比1.5%増)、営業利益は956百万円(前年同四半期比0.8%減)、経常利益は979百万円(前年同四半期比0.0%増)、四半期純利益は674百万円(前年同四半期比0.0%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末比709百万円増の26,746百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金の増加等により前事業年度末比650百万円増の8,865百万円となりました。

固定資産は、繰延税金資産の増加等により前事業年度末比58百万円増の17,880百万円となりました。

### (負債)

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末比365百万円増の5,341百万円となりました。

流動負債は、1年内返済予定の長期借入金の減少等はありませんでしたが、賞与引当金の増加等により、前事業年度末比537百万円増の3,595百万円となりました。

固定負債は、長期借入金の返済等により前事業年度末比172百万円減の1,745百万円となりました。

### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は、配当金の支払がありました、四半期純利益の計上等により、前事業年度末比344百万円増の21,404百万円となりました。

自己資本比率は前事業年度末に比べ、0.9ポイントダウンし80.0%となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績につきましては、2020年10月30日付け「2020年9月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」に記載の予想と変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,877,599	8,401,571
売掛金	67,811	110,785
たな卸資産	26,497	30,077
その他	244,436	325,339
貸倒引当金	△1,111	△1,816
流動資産合計	8,215,233	8,865,957
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	7,711,467	7,683,647
土地	9,083,408	9,083,408
その他(純額)	194,452	195,333
有形固定資産合計	16,989,329	16,962,389
無形固定資産		
投資その他の資産	39,983	37,368
敷金及び保証金	514,650	531,304
その他	277,597	349,468
投資その他の資産合計	792,248	880,773
固定資産合計	17,821,561	17,880,531
資産合計	26,036,794	26,746,488
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	1,871,868	1,838,379
リース債務	16,217	15,218
未払金	124,762	124,165
未払法人税等	302,751	416,509
賞与引当金	88,306	310,635
その他	654,048	890,925
流動負債合計	3,057,953	3,595,832
固定負債		
長期借入金	1,518,839	1,338,532
リース債務	18,140	20,756
役員退職慰労引当金	129,800	129,800
資産除去債務	237,228	242,432
その他	14,293	14,283
固定負債合計	1,918,301	1,745,804
負債合計	4,976,255	5,341,637

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,778,330	1,778,330
資本剰余金	2,082,726	2,082,726
利益剰余金	17,417,676	17,761,954
自己株式	△216,718	△216,718
株主資本合計	21,062,013	21,406,292
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△1,474	△1,440
評価・換算差額等合計	△1,474	△1,440
純資産合計	21,060,538	21,404,851
負債純資産合計	26,036,794	26,746,488

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自2019年10月1日 至2019年12月31日)	当第1四半期累計期間 (自2020年10月1日 至2020年12月31日)
売上高	3,149,336	3,197,324
売上原価	1,998,862	2,063,833
売上総利益	1,150,474	1,133,491
販売費及び一般管理費	186,204	177,150
営業利益	964,269	956,341
営業外収益		
受取利息	6	3
助成金収入	5,674	6,432
受取家賃	24,981	26,399
その他	2,725	7,157
営業外収益合計	33,388	39,992
営業外費用		
支払利息	249	919
賃貸費用	17,774	15,641
その他	2	15
営業外費用合計	18,026	16,576
経常利益	979,631	979,757
税引前四半期純利益	979,631	979,757
法人税、住民税及び事業税	369,690	383,323
法人税等調整額	△64,366	△77,964
法人税等合計	305,324	305,359
四半期純利益	674,306	674,398



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社は、学習塾事業の単一セグメントであるため、記載を省略しています。

3. 補足情報

生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績及び受注実績

当社は、生徒に対して授業を行うことを業務としていますので、生産及び受注実績は、該当事項はありません。

(2) 販売実績

当社は学習塾事業の単一セグメントであるため、開示対象となるセグメントはありませんが、当第1四半期累計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりです。

事業部門別	当第1四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2020年12月31日) (千円)	前年同四半期比 (%)
小中学生部門	2,523,464	100.4
高校生部門	673,860	106.1
合 計	3,197,324	101.5